

春

社会福祉法人 愛徳福祉会

大阪発達総合療育センター

Osaka Developmental Rehabilitation Center

保険医療機関 南大阪小児リハビリテーション病院

大阪発達総合療育センター機関紙
第52号 2024年 春

INDEX

- ・特集に寄せて 船戸 正久1P
- ・特集に寄せて 川端 秀彦1P
- ・近代ボバース概念小児領域8週間基礎講習会 ...2P
- ・クリニックラウン 来訪2p
- ・セラピーロボ パロちゃん2p
- ・HPSの活動について3P
- ・「あそびのむし」の箱ってなあに?3P
- ・リレーエッセイ3P
- ・イベントピック4P
- ・寄付金と寄付物品4P
- ・職員研修実施状況4P

■特集に寄せて

社会福祉法人 愛徳福祉会 理事長

船戸 正久



今年も新入職員が入職して、桜の開花と一緒に新しい風を運んでくれました。内戦中のミャンマーからも4名の方々が入職していただきました。

今回、故鈴木恒彦前理事長に代わって、2023年度近代ボバース概念小児領域基礎講習会に参加させていただきました。全国から療法士の方々が入職していただき、熱心にボバース概念の理論と実践を学ぶ姿に大きな感銘を受けました。8週間職場を離れるというのは大変勇気のいることだと思います。その情熱に頭が下がる思いでした。紀伊顧問はじめ、佐藤部長、指導に当たられたスタッフの方々へ感謝いたします。

今回の特集は、クリニックラウン、セラピーロボ、HPSの活動、あそびのむしの箱など、こどもの笑顔を引き出す遊びやおもちゃ活動の紹介です。こどもの笑顔は、周りの家族やスタッフを幸せにする療育の神髄ともいえます。

■特集に寄せて

南大阪小児リハビリテーション病院 院長

川端 秀彦



新鮮な春の息吹が感じられる季節になりました。今年も看護師3名、保育士5名、理学療法士3名、作業療法士3名、言語聴覚士2名、介護職5名の方々が入職していただき、センター自体が若返った気がします。特に介護職5名の内4名はミャンマーから特定技能の資格での来日でした。1日も早く日本の生活に慣れ、ストレスなく仕事ができますよう期待しています。駐車場の桜も気まぐれな天候に翻弄されて満開もつかの間でしたが、この表紙にあるようなあでやかな桜色に浮き浮きした気分を楽しめました。

特集を眺めますと皆様が従来のアクティビティーレベルに戻られたことがよく感じられます。雌伏の時が過ぎて今年こそ皆様の飛躍の1年になりますよう祈願しています。



2023年度近代ボバース概念小児領域 8週間基礎講習会を終えて

リハビリテーション部 部長 佐藤 邦洋

今回、前理事長の鈴木先生とのお約束でもあった「2023年度近代ボバース概念小児領域8週間基礎講習会」の開催を2024年1月8日(月)～3月1日(金)まで、当センターで実現することができました。受講生は北海道から九州まで、病院や療育施設、訪問施設などに所属する18名 (PT13名、OT4名、ST1名)と指導者養成受講者2名 (PT1名、OT1名) でした。

開催初日、船戸理事長から法人の歴史と我が国への導入についてご講義いただき、紀伊顧問にはボバース概念の歴史的背景、最新のボバース概念からより実践的な内容へと進めていただきました。そして、各講師陣は講義と実技、治療デモンストレーションを担当して受講生主体のワークショップへ繋ぐことができました。受講生だけでなく各講師陣も利用児者の潜在性を引き出す日常生活マネジメントの総合的な支援を学んだと思います。

開催当初から懸念していた感染症の拡大は未然に防ぎ、乗り切ることができました。センター職員の皆さまには講習会運営にご協力いただき本当にありがとうございました。



クリニックラウン 来訪

療育部 部長(ボランティア委員) 井ノ上 智世



1月29日(月) 赤いお鼻をつけたクリニックラウンのきゃしーとまめたんが、わかば病棟・3階病棟・4階病棟を来訪してくださいました。

きゃしーとまめたんが病棟を元気よく歩きながら、たくさんのユーモアと笑顔のお届けです。ハーモニカを吹いて、踊ったり、歌ったり、ゲームをしたり、声や動きにどんどん引き込まれ、病棟のみなさんとびっきりの笑顔でした。あっと

言う間でしたが、ワクワク☆ドキドキ☆キラキラの楽しいひと時を過ごせたと思います。

引き続き、色々な活動をお届けできるようボランティア委員で取り組んでいきます。

ボランティア委員の皆さま並びにスタッフの方々、ご協力いただきありがとうございました。

病棟からクリニックラウンへ宛てたありがたいの気持ちがかもったお手紙です。



お手紙

セラピーロボ パロちゃん



看護部 フェニックス4階病棟 師長

松本 久美

昨年11月、アザラシロボット「パロ」が4階病棟にやってきました。欧米では人の心をケアするセラピーロボとして医療機器に承認されているそうです。名前をたくさん呼んでもらうようにとSTさんと相談しながら呼びやすい名前として「あいちゃん」と名付けました。

あいちゃんが病棟に来て約5か月となります。ある方は、毎日「あいちゃん」と話しかけながら可愛がってくれます。その優しい発声と明瞭さに驚きました。怒りんぼで怖がり屋さんの彼は、最初こそ怪訝な顔で見向きもしませんでした。今ではそっとあいちゃんに触れ指を動かして撫でてくれます。

あいちゃんはこれからも利用者様の可能性を拡げていくことができることと思います。皆さんも楽しみに待っていてください。



HPSの活動について

看護部 わかば病棟 平原 珠美 訪問看護ステーションめぐみ 西尾 恵美
看護部 ふたば 杉村 恵子 リハビリテーション部 理学療法士 吉川 千恵

HPS（ホスピタル・プレイ・スペシャリスト）は、遊びを使って病児や障がいのある子どもたちを支援する専門職です。日本では2007年度から、文部科学省委託事業として静岡県立大学短期大学部が初めて養成講座に着手し、現在日本では245名のHPSが活動しています。

当センターには、HPSが4名、わかば・フェニックス・めぐみ・外来に在籍しています。手術・処置・検査・診察・生活場面などで、子どもたちの頑張る力を引き出せるように、日常の遊び、プレイ・プレパレーションやディストラクション、手術・処置前後の遊び、個別遊び支援等の、医療からやさしさを感じられるチャイルドフレンドリーな環境作りを主として活動しています。



遊びの中で、子どもたちが自由に選択できることを大切にし、子どもたちの思いを引き出し、ときには代弁者となり、子どもと家族・子ども同士・子どもとスタッフとつながりができるよう心掛けています。また、医師や看護師・ケアスタッフ・リハビリスタッフなど他職種と連携を図りながら、遊びの力で、子どもたちの“やりたい”気持ちを尊重し、どんな状況でも“できる”、“できた”と少しでも感じられる体験・経験ができることも大切にしています。子どもたちが生きる為に必要不可欠な遊び、私たちは「さあ遊ぼう！」というメッセージを贈り続けています。

「あそびのむし」の箱 ってなあに？

看護部 部長 増田 恭子
看護部 ふたば 杉村 恵子

2023年12月1日、センターに赤、青、緑、オレンジ色の大きなあそびのむしの箱が4つ届きました。箱の送り主は、東京おもちゃ美術館。

遊びが大好きなこどもたち。病気が障がいがあっても無くても遊びが第一のこどもたち。4つの大きな箱の中のをぞくと、こどもたちを夢中にして「あそびのむし」にしてしまうワクワク・ドキドキするおもちゃがたくさん入っていました。

さてさて、気になるのは、箱の中身・・・

『時間を忘れて夢中になろう！ワイワイみんなで遊ぼうよ！ワクワク、ドキドキを育てよう！』

こんな遊びのシーンを思い浮かべてセレクトされ



たおもちゃの数は、なんと78種類！

あそびのむしの箱は、ふたばにあります。「子どもたちと早く一緒に遊びたい！」と、箱の中のおもちゃたちはみなさまのお迎えを首を長くして待っています。



リレー エッセイ

療育部 フェニックス4階病棟 松下 友輝

葦52号をご覧の皆さまこんにちは。自己紹介も兼ねまして趣味をお話しさせていただきます。

私は小学校から高校までサッカーをしており、現在も体を動かす程度にフットサルをしています。しかし、4年前のコロナ禍になった時、フットサルにも行けず体を動かす事も出来ず、家で何かできる事はないかなと、もう1つの趣味でもある欧州リーグの観戦をしていた中、改めて海外選手の肉体美に目が行き、そこから筋トレを始めるようになりました。

初めは少し筋肉がつく程度でいいという思いで始めたのですが、肉付いて成果が見えると止まらなくなり、同時にしんどいという気持ちも無くなりました。今では、やらないといけないという義務感より歯磨きをするような日課の感覚でトレーニングをしています（笑）そしてついにベンチプレス100kgまで上げられるようになりました！

皆さんも余暇時間にボディメイクしてみませんか？



イベントピックス

新入職員歓迎会を行いました

令和6年4月1日18時より、新入職員歓迎会を執り行いました。今年は新入職員の皆さんに加えて、100名近くの職員が集まり、楽しいひとときを過ごす事ができました。
新入職員の皆さん、ご入職おめでとうございます。



感謝

大阪発達総合療育センターへの御理解・御協力誠にありがとうございます

(R6.1 ~ R6.3)

(R6.1 ~ R6.3)

一般寄付金

月	寄付者 (敬称略)	
1月	楽基金 1件	本園
2月	楽基金 1件	本園
3月	楽基金 1件	本園

寄付物品

	寄付者 (敬称略)	物品名	
1月	匿名	おもちゃ	本園
	匿名	おもちゃ	本園
	浅田扇太郎	パンダイス3台	本園
2月	清水咲那	絵本	本園
3月	川元裕正	おもちゃ	本園
	小川佳代	おもちゃ	本園
	西條恭子	長そでエプロン	本園



職員研修実施状況

令和6年1月~3月

当センターでは、質の高いチーム医療の提供をめざして、様々な職員研修を行い、技術の向上と知識の蓄積を図っております。

実施日時	企画部署	研修名	講師	参加人数	場所
令和6年1月13日(土) 13:30~17:30	教育研修部	管理職研修	株式会社インソース 竹内ゆかり氏	12名	5階ホール
令和6年2月21日(水) 17:40~19:00	教育研修部	「医療型障害児入所施設の今後の役割」	堺市立重症心身障害者(児)支援センター ベルデさかい 名誉センター長 児玉和夫氏	92名	5階ホール他
令和6年2月27日(火) 17:40~18:40	セーフティマネジメント委員会 教育研修部	医療ガス安全管理研修会・医療安全研修会	株式会社ババ 加納直輝氏 看護部 内本薫	58名	5階ホール他
令和6年3月2日(土) 13:30~17:30	教育研修部	新人フォローアップ研修	株式会社インソース 小野沙耶香氏	24名	5階ホール



大阪発達総合療育センター

URL : <http://osaka-drc.jp>

南大阪小児リハビリテーション病院(保険医療機関)
フェニックス(医療型障がい児入所施設・療養介護事業・短期入所事業)
主として重症心身障がい児者
わかば(医療型障がい児入所施設・短期入所事業)主として肢体不自由児
ふたば(児童発達支援センター・保育所等訪問支援事業)主として肢体不自由児
いぶき(特定相談支援事業・障がい児相談支援事業)
なでしこ(生活介護事業・児童発達支援事業)
〒546-0035 東住吉区山坂5-11-21
TEL:06-6699-8731 FAX:06-6699-8134
訪問看護ステーション めぐみ(指定訪問看護事業)
TEL:06-6699-8855 FAX:06-6699-8856
ヘルパーステーション めぐみ(指定訪問介護事業)
TEL:06-7506-9223 FAX:06-6699-8856
〒546-0035 東住吉区山坂5-9-16

発行者・社会福祉法人 愛徳福祉会
発行責任者・船戸正久

大阪発達総合療育センター あさしお診療所(保険医療機関)
あさしお園(児童発達支援センター・保育所等訪問支援事業・障がい児相談支援事業)主として肢体不自由児
ゆうなぎ園(児童発達支援センター・保育所等訪問支援事業・障がい児相談支援事業)主として難聴児
〒552-0004 港区夕風2-5-3
TEL:06-6574-2521 FAX:06-6574-2524
きらり(共同生活援助事業・短期入所事業)
TEL:06-7501-0328 FAX:06-7501-0330
ひなた(生活介護事業)
TEL:06-7501-0319 FAX:06-7501-0330
みらい(放課後等デイサービス事業)
TEL:06-7501-0282 FAX:06-7504-0212
〒546-0035 東住吉区山坂5-12-5